



発行日：令和6年7月22日



N(エヌ)

作者:道尾秀介

あらすじ：旦那のペット探偵としての初仕事についていった梨香。内容は住宅地で行方不明になった犬を探すものだが、なぜかその犬は無人島にいるらしく…

(「名のない毒液と花」より)

魅力：この本はどの章から読んでも物語が成り立つため、この1冊で720通りの読み方があり、何度読み返しても飽きないものになっています。

いやはや、サマーシーズン到来ですね。私たちは受験勉強やオープンキャンパスやらで大変ですが、やはりこの季節に欠かせないのはアイスの存在でしょう。コスパ最強のガリガリ君、高級志向のハーゲンダッツ、夏といえばのスイカバー等々いろんなアイスがこの世にはあふれていますが、僕がイチオシしているのが今年新発売の「ガツンといちご」そう、みかんでなく苺です。これがべらぼうに安くて美味しいので今年の相棒はこいつに決まりました。「みかん」から続く内部の果肉が素晴らしいので、皆さん是非ご賞味あれ。



どこかでベートーヴェン

中山七里

岐阜県にある賀茂北高校の音楽科の生徒たちは発表会に向けて、練習に励んでいた。ところが突然の豪雨によって土砂崩れが発生し、生徒たちは校内に閉じ込められてしまう。そんな中こっそり抜け出したクラスの問題児が何者かに殺害されてしまう。警察に疑いをかけられた岬洋介は自分の無罪を証明するために推理をしていく。真相を知ったとき、私はすごく衝撃をうけました。まったく予想することができない新感覚の推理小説、ぜひ読んでみてください。